

EUSI メールマガジン Vol. 103

「欧州統合の「記憶の場」ヴェントターネ島に渦巻くイタリア政治」(八十田博人)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 085】

「欧州統合の「記憶の場」ヴェントターネ島に渦巻くイタリア政治」

八十田博人 (共立女子大学国際学部教授)

「8月22日にレンツィ首相がフランスのオランド大統領、ドイツのメルケル首相とともに、ヴェントターネ島を訪問する」と、イタリアの通信社、新聞が速報で伝えたとき、これまでイタリアと欧州統合の関係を考えてきた筆者も、驚きを禁じえなかった。

欧州連邦主義運動の歴史的文書「ヴェントターネ宣言」が編まれた地として知られるこの離島(ラツィオ州のフォルミア港から高速艇で1時間、カーフェリーで2時間)は、イタリアの政治家たちが折に触れ、ここを訪ね、イタリアの欧州主義の立脚点を見つめ直す場ではあっても、そこを他のEU加盟国の首脳、特に仏独両国の首脳が訪問するようなことは、まずなかったからである。

もちろん、今回の訪問は、イギリスの国民投票でEU離脱派が勝利した後に、EU原加盟国にしてユーロ圏の中核である三国が欧州統合のミッションを再確認する機会であったことは間違いない。

また、三人でヴェントターネ宣言を起草したアルティエーロ・スピネッリの墓を詣でるだけでなく、共同記者会見を地中海で難民救助に当たるイタリア海軍の軽空母「ジュゼッペ・ガリバルディ」の甲板で行ったのは、この機会に欧州内での存在感を強めたいイタリア側の意気込みを示したものだ。

欧州統合の真の中核である仏独両国にとっても、欧州が危機の中にあり、イタリアをつなぎとめておかねばならない時期だからこそ、このような「イタリアの欧州モノ尽くし」のイベントも可能になったといえるだろう。

一方、イタリア国内に目を向ければ、レンツィ首相は、イタリア中道左派の伝統に立ち返り、その欧州主義の旗幟を鮮明にする必要があった。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol85.pdf>

【EUSI イベントご案内】

1. ジャン・モネ EU 研究センター(慶應義塾大学)「第89回慶應 EU 研究会」

日時: 2016年10月29日(土) 10:30-12:00

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 南館4階会議室

細谷雄一 (慶應義塾大学法学部教授・EUSI 執行委員)
「著書『迷走するイギリス EU 離脱と欧州の危機』について」

主催: ジャン・モネ EU 研究センター (慶應義塾大学)
参加: 無料・事前登録不要 (どなたでも参加できます)
<http://www.jean-monnet-coe.keio.ac.jp/index.html>

2. 九州大学 EU センターより以下のセミナーのご案内が届いています
ジャンモネ COE 九州キックオフセミナー「BREXIT を読み解く」

日時: 2016年10月30日(日) 13:30-16:15 (13:00 開場)
場所: 九州大学西新プラザ (福岡市早良区西新 2-16-23)

6月23日の国民投票で、離脱派が過半数を占めたイギリスの EU 離脱問題は、世界的な経済の不安定化をよびおこし、イギリス国内の政治状況も混乱しています。また、EU に対しても統合のあり方に重要な課題をつきつけるものです。

九州大学 EU センターが EU の中心的な教育助成プログラムであるエラスムス・プラスのもと「Jean Monnet Centre of Excellence」事業に採択されたことを記念して開催する今回のキックオフセミナーでは、EU 研究の第一人者である遠藤乾氏をお迎えし、英国 EU 離脱問題を中心に今後の課題や展望についてお話いただきます。

講演: 遠藤乾 (北海道大学法学部・公共政策大学院教授)
「欧州複合危機のゆくえ イギリス離脱後の EU と世界」
討論: 岩田健治 (九州大学 EU センター長、九州大学経済学研究院教授)

主催: 九州大学 EU センター、定員: 80 名
参加: 無料・事前申込要
件名に「セミナー参加希望」と明記し、お名前、メールアドレスか電話番号、ご所属を記入の上、メールまたは FAX でお申し込みください。
E-mail: eucentre@jimu.kyushu-u.ac.jp | FAX: 092-642-4435
<http://eu.kyushu-u.ac.jp/news/20161030-Kick-Off-Seminar.pdf>

3. 明治大学国際総合研究所より以下のシンポジウムのご案内が届いています
「EU は危機を超えられるか 中東危機と英国離脱」

日時: 2016年10月31日(月) 13:00-17:00 (受付開始 12:30)
場所: 明治大学 駿河台キャンパス グローバルフロント・グローバルホール

13:05-13:30 基調講演「EU と日本」
ヴィオレル・イスティチョアイア＝ブドゥラ (駐日 EU 大使)

13:30-14:40 第一部「英国の EU 離脱と欧州の行方」
野上義二 (日本国際問題研究所理事長・元駐英大使)
小林栄三 (日本貿易会会長・伊藤忠商事会長)
吉田健一郎 (みずほ総合研究所上席主任エコノミスト)
岡部直明 (明治大学国際総合研究所フェロー: 司会)

14:50-15:50 第二部「EU と中東 難民問題の背景」

脇祐三 (日本経済新聞コラムニスト)

中川恵 (明治大学国際総合研究所客員教授・羽衣国際大学教授)

山内昌之 (明治大学国際総合研究所特任教授・東京大学名誉教授: 司会)

15:55-16:55 第三部「ユーロ危機は収束したか」

白井さゆり (慶應義塾大学教授・前日銀審議委員)

伊藤さゆり (ニッセイ基礎研究所上席研究員)

林秀毅 (明治大学国際連携機構特任教授・日本経済研究センター特任研究員)

岡部直明 (明治大学国際総合研究所フェロー: 司会)

参加: 事前申込要 (詳細は以下 HP をご参照下さい)

<http://www.meiji.ac.jp/miga/news/2016/6t5h7p00000mlzvn.html>

4. 駐日 EU 代表部より以下のシンポジウムのご案内が届いています

シンポジウム「死刑について議論しよう」

日時: 2016年11月17日(木) 17:30-20:00 (17:00 開場)

会場: 駐日 EU 代表部 ヨーロッパハウス講堂 (東京都港区南麻布 4-6-28)

本年10月、日本弁護士連合会が、2020年までに死刑制度の廃止を目指すとする内容の宣言を採択しました。死刑制度の廃止は、世界的な潮流ではありますが、日本では、内閣府の世論調査によると、同制度の存置を求める声が多数を占めています。死刑の存廃については、これまで社会で広く議論されることはありませんでした。

よって、本シンポジウムは、死刑制度に賛成する人、反対する人、そしてよく分からないという人にもご参加いただき、考え、議論する場を提供することを目的としています。それぞれの立場の法律専門家から、直接お話を聞くことのできる貴重な機会です。ドキュメンタリー映画『望むのは死刑ですか: 考え悩む世論』の上映も予定しています。皆さまのご参加をお待ちしています。

17:30-17:35 開会挨拶 イスティチョアイア=ブドウラ (駐日 EU 大使)

17:35-18:45 パネリストによる問題提起 (各 30 分)、質疑応答

18:45-19:45 映画『望むのは死刑ですか: 考え悩む世論』(長塚洋監督) 上映

19:45-20:00 質疑応答

パネリスト:

小川原優之弁護士 (日本弁護士連合会死刑廃止検討委員会事務局長)

高橋正人弁護士 (全国犯罪被害者の会[あすの会]副代表幹事)

司会: ファビアン・フィエスキ (駐日 EU 代表部公使参事官)

主催: 駐日 EU 代表部、言語: 日本語

参加: 無料・事前申込要 (11月15日17時まで)

Eメールにて、件名に「シンポジウム」と入れ、お名前とご所属を明記の上 (日英併記)、delegation-japan-political@eeas.europa.eu までお送り下さい

<http://www.euin-japan.jp/events/symposium-letstalkaboutdp/>

5. アジア太平洋 EU 学会 (EUSAAP) 2017 年度研究大会報告募集のお知らせ

アジア太平洋 EU 学会(EUSAAP: EU Studies Association Asia Pacific)の年次大会が、2017年度は日本がホスト国となり青山学院大学にて開催されます。

以下研究報告を募集しております。奮ってご応募ください。

共通論題「The Roles of the EU and Asia Pacific in the Global Era」

応募資格: 研究者及び大学院生 (修士課程・博士課程含む)

応募書類: 報告タイトル及び報告概要 (英文 300 words) を応募期間内に提出

応募期間: 2016年10月1日(土)-12月31日(土)

採否通知: 2017年3月15日(水) 報告者は採否通知受信後10日以内に要確認返信

報告論文締切: 2017年5月31日(水)

研究大会本番日時: 2017年7月1日(土)-2日(日)

研究大会本番会場: 青山学院大学 青山キャンパス

詳細は以下アジア太平洋 EU 学会 (EUSA AP) の研究大会 HP をご参照下さい

<http://eusaap.org/12-events/eusa-ap-events/21-2017-call-for-papers>

【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

細谷雄一 (慶應義塾大学法学部教授・EUSI 執行委員)

「今週の本棚 この3冊 危機のEUを知る」

『毎日新聞』2016年10月23日朝刊

<http://mainichi.jp/articles/20161023/ddm/015/070/038000c>

【EU に関する新刊紹介】

伊藤さゆり『EU 分裂と世界経済危機 イギリス離脱は何をもたらすか』

(NHK 出版新書、2016年10月7日刊行)

<https://www.nhk-book.co.jp/detail/000000884982016.html>

本書の著者である伊藤さゆり先生より、本書のご紹介を頂きました。

本書は英国の国民投票の結果を受けて緊急出版企画として刊行した。最大の特徴は、英国 EU 離脱問題の英国と EU への影響と、世界や日本への影響について、同じ程度の紙幅を割いていることにある。日本の一般的な読者のニーズに応えるためだ。

筆者は、民間のシンクタンクの研究者であり、EU の事情に必ずしも精通していない、あるいは常に動向をフォローすることが困難な実務家や投資家、メディア関係者さらに地方の企業経営者や自治体の関係者などを対象に欧州情勢について話す機会が多い。欧州の出来事や今後起こり得る事態と日本との関わりという視点を盛り込む大切さを日常的に感じている。欧州の研究者が本書のような構成の本をまとめることに意義があると思った。

具体的な構成は以下のとおりだ。

第1章「英 EU 離脱の深層」では、英国の EU 離脱選択の背景や想定される今後のシナリオを解説した。離脱後の英国と EU は、最終的には市場の一体性を保つ方向に落ち着くが、交渉には時間を要し、紆余曲折を辿るといふ...

...

(続きはこちら↓)

<http://eusi.jp/outreach/outreach-report/ito-2016/>

伊藤さゆり (ニッセイ基礎研究所上席研究員)

【EUに関する新刊紹介 2】

墓田桂『難民問題 イスラム圏の動揺、EUの苦悩、日本の課題』
(中公新書、2016年9月16日刊行)

<http://www.chuko.co.jp/shinsho/2016/09/102394.html>

本書の著者である墓田桂先生より、本書のご紹介を頂きました。

2015年にEUに流入した非正規移動者の数は100万人を超えた。欧州各国が対応に苦慮していることは述べるまでもない。難民危機は社会不安を引き起こしながら、欧州統合の将来を問う展開となっている。

本書はそうした状況を背景に、難民問題を軸にイスラム圏の動揺とEUの苦悩を描き、日本にとっての課題を論じるものである。狭義の難民問題にとどまらず、欧州とイスラムの文明論に言及し、21世紀初頭の世界情勢を俯瞰するなど、問題設定は幅広い。日本に関しては、EUの経験も踏まえつつ、慎重な対応を求めている。

ここではEUを扱った第3章の議論にふれつつ、本書の論旨を紹介したい。

近年のイスラム圏の混乱で生じた難民は、トルコや北アフリカを経由して欧州に渡っていった。流入の規模もさることながら、流入する人のなかには労働目的の移動者や戦争犯罪者、さらにはテロリストも紛れ込んだため、欧州諸国は多くの難題に直面した。

...

(続きはこちら↓)

<http://eusi.jp/outreach/outreach-report/hakata-2016/>

墓田桂 (成蹊大学文学部教授)

【EUに関するニュース】

- 2016年10月1日 EU・ベトナムパートナーシップ協力協定(PCA)発効。2012年6月27日調印後4年強で批准
- 2016年10月2日 EU・アフガニスタン、移民問題協力に関する政治合意を締結。4日、高官協議を開催
- 2016年10月2日 モグリーニ上級代表ら、シリア・アレッポへ支援物資輸送と病人避難等の緊急支援発表
- 2016年10月2日 ハンガリー、移民受入割当をめぐる国民投票。98%は反対票も、投票率43%で不成立
- 2016年10月2-5日 英保守党大会。メイ首相、来年3月までにEU離脱通告・交渉開始、移民制限重視示唆
- 2016年10月3日 コロンビア和平合意、同国国民投票で否決。モグリーニ上級代表、大統領と対応協議
- 2016年10月4日 欧州議会、COP21パリ協定批准を承認。EU批准により発効要件満了し、11月4日発効へ
- 2016年10月4日 欧州議会、死刑や拷問に使用され得る物品の貿易に対する規制強化を可決
- 2016年10月4日 第12回EU・中央アジア閣僚会議、ブリュッセルで開催。貿易・投資や持続的成長等協議
- 2016年10月4日 第3回EU・パキスタン戦略対話、ブリュッセルで開催。難民・民主化・人権問題等協議
- 2016年10月4日 英調査機関TheCityUK、英EU単一市場離脱なら金融業で400億ポンド減収との見込み発表
- 2016年10月4日 ダイアン・ジェームズ英独立党(UKIP)党首、就任18日間で辞任。欧州議員の任期は継続
- 2016年10月5日 EU及びアフガニスタン、アフガン復興支援国際会議を共催。EUと加盟国50億ユーロ支援
- 2016年10月5日 EU・NZ関係協力連携協定(PARC)、ブリュッセルで調印。両者間の新たな協力枠組を規定

- 2016年10月5日 欧州委員会、ハリケーン「マシュー」被害へ25.5万ユーロ支援。7日、150万ユーロ追加
- 2016年10月6日 欧州国境沿岸警備機関(EBCG)発足。従来の欧州対外国境管理協力機関(FRONTEX)権限拡大
- 2016年10月6日 ECB、9月理事会議事要旨公表。英EU離脱等の不透明感や、インフレへ金融緩和継続言及
- 2016年10月6日 EU・韓国外相会談、アフガン復興支援国際会議会期中に開催。北朝鮮核問題など協議
- 2016年10月6日 第1回EU・バチカン外交・地球規模課題対話、シリア情勢や難民・近隣地域情勢等協議
- 2016年10月6日 国際民間航空機関(ICAO)、国際線航空CO2排出規制の枠組み合意。欧州委員会、歓迎声明
- 2016年10月7日 モグリーニ上級代表、ブカレストフォーラムでEU新グローバル戦略の運用に関する演説
- 2016年10月7日 サントス・コロンビア大統領、ノーベル平和賞受賞。モグリーニ上級代表、祝意の声明
- 2016年10月7日 日本弁護士連合会、死刑廃止宣言を採択。EU及び欧州29カ国、同宣言歓迎の共同声明
- 2016年10月7日 英産業連盟(CBI)ら財界4団体、単一市場など英EU離脱交渉に関する要望書を政府に提出
- 2016年10月9日 エチオピア、反政府デモ激化で非常事態宣言。翌日EU報道官、人権尊重や対話求める
- 2016年10月10日 EU及び欧州審議会、世界死刑廃止デーに寄せて、死刑廃止に向けた取組謳う共同声明
- 2016年10月10日 独警察、ベルリン空港自爆テロ計画の疑いでシリア難民を逮捕。12日、容疑者自殺
- 2016年10月11日 第4回EU・中国ハイレベル人的・文化交流対話、北京で開催。教育連携強化など協議
- 2016年10月11日 EU軍事幕僚部情報部長コーネリアソン准将、北京でEU・中国の海洋安全保障協力講演
- 2016年10月11日 EU及び欧州29カ国、日本で死刑に関し開かれた議論を促す共同書簡を金田法相に提出
- 2016年10月11-12日 ハーン欧州委員、エジプトで大統領らと会談、1.29億ユーロの社会経済支援合意
- 2016年10月13日 モグリーニ上級代表ら、ボコ・ハラムに誘拐された少女の解放に関する共同声明
- 2016年10月13日 グテーレス元ポルトガル首相、次期国連事務総長に任命。トゥスク議長、祝意の声明
- 2016年10月13日 ブミポン・タイ国王死去。トゥスク常任議長・ユンカー委員長、弔意と哀悼の声明
- 2016年10月14日 第21回EU・ASEAN閣僚会議、グローバルパートナーシップに関するバンコク宣言採択
- 2016年10月15日 EU・カナダ包括的経済通商協定(CETA)調印反対の大規模デモ、仏・スペイン等で実施
- 2016年10月15日 スコットランド首席大臣スタージョン、SNP党大会で英EU単一市場離脱の阻止を強調

【編集後記】

昔、「中之島ブルース」という唄が流行ったことがあります。歌詞の中に日本各地の地名を盛り込んだご当地ソングと呼ばれるものの一つですが、この曲では、札幌、大阪、長崎といういずれも街中に川が流れ、その中に中之島がある三つの有名な都市が出てきます。

実はパリを流れるセーヌ川にもシテ島という有名な「中之島」があり、多くの観光客を集める名所となっています。大阪市ではこれを見習い、中之島にあった大阪大学医学部の跡地に新美術館を建設するプロジェクトを進めているそうです。展示の目玉になるのはパリと縁の深い画家である佐伯祐三コレクションですが、全体としても東アジアでトップクラスの質と量を誇る西洋絵画が集められていると自信を示しています。西日本最大の都市でありながらも、芸術文化の面では両隣の京都や神戸の後塵を拝していると言われてきた大阪にとって、観光や地域活性化への貢献に加え、胸を張って自慢できる新しい文化芸術施設の建設に対する期待が高まっています。

欧州には大小さまざまな特色を持った地域や町があります。EUの地域政策は、単なる所得の再配分や経済的格差の是正を進めるためだけでなく、多様性を尊重した地域づくりと地域間連携を強化していく方向に向かっているように思われます。

(藤川哲史・EUSI メールマガジン編集担当)

ちょうど100年前の今日、ブランデーの産地として有名なコニャック近郊にある

仏西部の小さな街で、フランソワ・ミッテランは生まれました。ミッテランは社会党書記長を務めた中道左派の人物で、1981年から1995年まで2期14年間仏大統領を務めることとなります。当時はサッチャーやレーガンに代表される新自由主義が席卷する中で、ミッテランは就任当初には国有化路線など社会主義的政策を志向するも挫折し、その後は新自由主義的経済政策へと舵を切ってゆくこととなります。

ミッテランは、コール独首相、そして自身の政権で蔵相を務めたドロール欧州委員長とともに、欧州統合を強く牽引してゆきました。日本国内で刊行されたミッテランに関する最も信頼し得る評伝として、本メールマガジンでも紹介したことのある(Vol.98)、ミシェル・ヴィノック著『ミッテラン』(大嶋厚訳、吉田書店、2016年)があります。同書のなかでヴィノックは、ミッテランの最も偉大な業績として、死刑廃止や地方分権化と並んで欧州統合を挙げています。ミッテラン時代のフランスにとって、欧州統合の推進は当初必ずしも自明の理ではなく、むしろ内なる病を抱えていました。ですが彼は自らの政治的業績を欧州統合の推進に見出し、マーストリヒト条約に対してフランス国内で国民投票の結果「ウイ」を勝ち取りました。ヴィノックの言葉を借りれば、「彼は連帯する平和なヨーロッパ建設の必要性についてはこれを予見し、変化を促し、フランス国民の多数がさほど望んではいなかったそれを受け入れさせた」のでした。

ミッテランは社会主義者でありながら現実主義的な変革を志向し、また左派の大統領(ミッテラン)の下で右派内閣(シラクなど)による政権運営という、二つの顔を併せ持ちながらも、巧みな処世術によりこれを切り抜けてゆきました。著名なジャーナリストのアラン・ドゥルメルが評するように、ミッテランは「20世紀フランスで最も魅力的で、間違いなく最も複雑な、最も小説めいた、最も非凡な、最も迷路のように入り組んだ政治の芸術家」といえるかもしれません。どうか多くの方にも本書を手にとってほしいとおもいます。

ミシェル・ヴィノック著、大嶋厚訳
『ミッテラン——カトリック少年から社会主義者の大統領へ』
(吉田書店、2016年8月1日刊行)
<http://www.yoshidapublishing.com/booksdetail/pg675.html>

(林 大輔・EUSI メールマガジン編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo
〒186-8601 東京都国立市中 2-1
一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局
TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら
E-mail: info@eusi.jp
